

2024 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 言語聴覚士学科 | 科 目 区 分 | 専門基礎分野 | 授業の方法 | 講義 | |
|-------------------|--|---|--------|---|-----|-----|
| 科 目 名 | 言語学 I | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 | (1) |
| 対 象 学 年 | 1 | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 702 | |
| 担 当 教 員 | 古田 功 士 | | | | | |
| 実務経験と その関連資格 | <p>大学、大学院にて言語学や音声学などを学ぶ(文学修士)。言語聴覚士として成人の言語障害などについて急性期から維持期に至るまで15年以上の経験を持つ。また臨床と共に日本言語聴覚学会での研究発表や音声言語についての勉学を続けており、本校以外にも言語聴覚士の養成校や大学にて非常勤講師として言語学、音声学、音響学など音声言語についての講義を10年以上担当。京都・滋賀にて臨床のSTさん向けの勉強会『臨床の学び舎 おんせいげんご』(https://onsei-gengo.jimdosite.com/)を主催の一人として定期開催。</p> | | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | <p>言語聴覚士として言語障害をお持ちの方と関わる際に、そのご様子について理解するための基本的な知識として、一般言語学を概論的に学ぶ。</p> | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | <p>科目修了試験100%</p> | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | <p>『言語学第2版』 風間喜代三ら 東京大学出版会</p> | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | <p>講義は国家試験の出題基準である『言語聴覚士テキスト第3版』の理解を中心に進行します。特に授業外での学習は必須ではありませんが、講義前後で質問などあれば、気楽にお声かけ下さい。</p> | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | <p>言語学はとっっても広く深い学問であり、私たちにとって当たり前の「ことば」について、時には難解な専門用語を用いた独特の視点で掘り下げていきます。興味を持ちにくい方もいると思いますが、「ことば」への視点を持つ基礎として楽しんで頂ければと思います。</p> | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | | |
| 第1回 | 授業を通じての到達目標 | 言語学を学ぶ意義を理解する。 | 配布資料 | 必須ではないが、言語聴覚士テキストの当該部分を見ておくと理解の助けとなる。また講義後、指定教科書の『言語学第2版』にて該当する内容を読んでもみることも知識を深める機会となる。 | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 言語聴覚士テキストの「言語学」を概観。および「1, 言語学とは？」に相当する範囲を中心に解説する。 | | | | |
| 第2回 | 授業を通じての到達目標 | 言語の基本的な性質について理解する。 | 配布資料 | 同上。 | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 言語聴覚士テキストの「2, 言語の基本的性質」に相当する範囲を中心に解説する。 | | | | |
| 第3回 | 授業を通じての到達目標 | 音声言語について「形態論」的な解釈・視点を理解する。① | 配布資料 | 同上。 | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 言語聴覚士テキストの「4.形態論」に相当する範囲を中心に解説する。 | | | | |
| 第4回 | 授業を通じての到達目標 | 音声言語について「形態論」的な解釈・視点を理解する。② | 配布資料 | 同上。 | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 言語聴覚士テキストの「4.形態論」に相当する範囲を中心に解説する。 | | | | |
| 第5回 | 授業を通じての到達目標 | 音声言語について「統語論」的な解釈・視点を理解する。① | 配布資料 | 同上。 | | |
| | 各コマにおける授業予定 | 言語聴覚士テキストの「5.統語論」に相当する範囲を中心に解説する。 | | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|--|------|-------------------|
| 第6回 | 授業を通じての到達目標 | 音声言語について「統語論」的な解釈・視点を理解する。② | 配布資料 | 同上。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 言語聴覚士テキストの「5.統語論」に相当する範囲を中心に解説する。 | | |
| 第7回 | 授業を通じての到達目標 | 音声言語について「意味論」的な解釈・視点を理解する。① | 配布資料 | 同上。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 言語聴覚士テキストの「6.意味論」に相当する範囲を中心に解説する。 | | |
| 第8回 | 授業を通じての到達目標 | 音声言語について「意味論」的な解釈・視点を理解する。② | 配布資料 | 同上。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 言語聴覚士テキストの「6.意味論」に相当する範囲を中心に解説する。 | | |
| 第9回 | 授業を通じての到達目標 | 音声言語について「語用論」的な解釈・視点を理解する。① | 配布資料 | 同上。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 言語聴覚士テキストの「7.語用論」に相当する範囲を中心に解説する。 | | |
| 第10回 | 授業を通じての到達目標 | 文字の存在意義について理解する。 | 配布資料 | 同上。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 言語聴覚士テキストの「7.語用論」に相当する範囲を中心に解説する。 | | |
| 第11回 | 授業を通じての到達目標 | 言語類型論および対照言語学について、存在と意義を理解する。 | 配布資料 | 同上。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 言語聴覚士テキストの「9.言語と言語間の関係を探る」に相当する範囲を中心に解説する。 | | |
| 第12回 | 授業を通じての到達目標 | 音声言語について「音韻論」的な解釈・視点を理解する。① | 配布資料 | 同上。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 言語聴覚士テキストの「3.音韻論」に相当する範囲を中心に解説する。 | | |
| 第13回 | 授業を通じての到達目標 | 音声言語について「音韻論」的な解釈・視点を理解する。② | 配布資料 | 同上。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 言語聴覚士テキストの「3.音韻論」に相当する範囲を中心に解説する。 | | |
| 第14回 | 授業を通じての到達目標 | 社会言語学という立場の存在と意義を知る。 | 配布資料 | 同上。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 言語聴覚士テキストの「10.社会言語学」に相当する範囲を中心に解説する。 | | |
| 第15回 | 授業を通じての到達目標 | 言語聴覚士テキストの「言語学」全体に書かれている内容を既知のものとする。 | 配布資料 | 特になし。 |
| | 各コマにおける授業予定 | 言語聴覚士テキストの「言語学」全体を俯瞰する。 | | |